

けれども、わりと中検のほうは受け身の立場じゃないでしょうか。

北村 いや、指導するのは、やはり中検だと思うのです。

宮城 私もそう思いますね。

北村 どう取るべきか、どういうふうに運べという指導は、やはりしろうとはわからないですから。

松村 しかし、それが実際に行なわれているかどうかというものをチェックするのはだれでしょう。朝7時に取れといったのを、朝9時に取ったというのね、まあそれは、一応は紙に書いておいて……。

石井 あるいは、前の日に取っておいて……。

宮城 電解質の場合、ナトリウムカリウムの場合ですと、前の日に取って冷蔵庫に入れて、うっかり出すの忘れて、そういうときの値というのは、ものすごく違いますね。

北村 ものすごく違ってくれりゃ変だって気がつくんですけども。ものすごく、突拍子もない、死ななきや出ないような値だと、これはおかしいじゃないかということになりますけれど、そのボーダーラインがこわい。もっとも意味をつけなければ

ばならんのが……。

石井 そうなんです。そういうもののために得られた成績だったならば、これは大きな問題になりますわね。そのときに、初めて、心電図は何とないじゃないかとなるわけですよ(笑)。検査室は何しとると……

北村 検査室何をかいわんや。

宮城 大体、24時間ぐらい放置されて出されますと、カリウムで8mEq/lぐらい出ますね。

北村 出ますよ、冷蔵庫に入れたら10mEq/lを越える。

松村 10mEq/lを越えたりなんかすれば、あわてふためくからいいんですがねえ。6とか何かじゃ困る。

北村 これは、結局どこが責任持つかということじゃない。臨床検査は患者のためのものなんですから、なわばりとかいうものじゃなくてね。だれが責任かといえ、それは病院長になるかもしれないようなものでやはりわれわれ検査室としては、できるだけのことをする必要があると思うし……。

石井 お互いが注意しなきゃいけないということですか。

松村 まあ気のついたことは、何でも申し上げるということなんですな。

北村 そうですね。そしてやはりなわばりをあんまり意識してはいけないんじゃないでしょうかね。

石井 要するに、患者を中心に考えるというこでですね。

北村 採血は臨床検査技師はやるべきではない、法的にはそうでしょう。だけど法律のために人間があるのではない。その是非は別として一番いい信頼できるデータを出すために、検査室が中心になるべきだし、そのためには、採血して検査室に出てくるまでの問題についても、できるだけ努力をしなければいけないものだと思いますね。

松村 結局、精度を上げるためにはまず各自の技術の精度がどの程度であるかをよく知った上で、患者を中心としてそこからのルートや、それぞれの持ち場に責任を持ってみんながちゃんとやらないと、うまくいかないということになるようであります。

では、どうもいろいろありがとうございました。(おわり)

ニュース

受賞者決定

第一回小島三郎記念技術賞

昭和40年、前国立予防衛生研究所所長故小島三郎博士の遺徳を永く顕彰すべく小島三郎記念会が設置され、その記念事業として、「小島三郎記念文化賞」および「小島三郎記念技術賞」が設定されましたことは既報の通りであります。

昨年は第一回「小島三郎記念文化賞」の贈呈が行なわれ、大阪大学微生物病研究所教授・奥野良臣博士(ハシカウイルスの分離とワクチン開発に関する研究)、財団法人実験動物中央研究所常務理事・野村達次博士(実験動物の開発とその基礎研究)がそれぞれ受賞されました。

今般第一回「小島三郎記念技術賞」の選考委員会が去る6月12日に開かれ、慎重審議の結果次の方々に贈られることが決定し、7月1日発起人であり運営委員長の国立予防衛生研究所第一細菌部長・福見秀雄博士より発表されました。

第一回の「小島三郎記念技術賞」を贈られることになった氏は「永年の間衛生検査(臨床検査)の業務に従事されて、とくに後進技術者の指導および、検査術式、方法などの改良に尽力されたこと」によるものであります。

札幌市衛生試験所 田村利勝 国立横浜病院 中橋勇次郎 国立東京第一病院 広明竹雄 安田病院(名古屋)内藤昌之助 和歌山市医師会病院 成人病センター 桶谷英広 (敬称略・順不同)
なお贈呈式は昭和41年9月10日(土)午後3時より新築なった野口英世記念会館(東京都新宿区大京町26)講堂で行なわれます。受賞者には本賞として記念盾(第一美術協会・新関国臣作)および副賞が小島三郎未亡人より贈られます。

また贈呈式の際次の特別講演が行なわれます。

1. 小島三郎先生のことども

大阪大学微生物病研究所・教授 藤野恒三郎博士
2. 微生物検査の現況と進歩

順天堂大学医学部臨床病理学・教授 小酒井望博士
〔小島三郎記念会〕